

各 位

会 社 名 株式会社システムソフト
 代表者名 代表取締役社長 吉尾 春 樹
 (JASDAQ・コード 7527)
 問合せ先 取締役執行役員管理部長 緒 方 友 一
 TEL 092-714-6236

特別損失の発生並びに平成 20 年 9 月期中間期（連結・個別）及び
 通期（連結・個別）業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 20 年 5 月 2 日開催の取締役会において特別損失を計上することを決議いたしましたので、その概要をお知らせするとともに、最近の業績動向を踏まえ、平成 20 年 9 月期（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）の業績予想について、平成 19 年 11 月 13 日付当社「平成 19 年 9 月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の発生

(1) 減損損失：422 百万円（連結）

当中間連結会計期間において減損の要否の判定を行い、子会社 株式会社リビングファーストの将来収益獲得能力等を保守的に勘案した結果、のれんについて帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたします。

(2) 投資損失引当金繰入額：511 百万円（個別）

上記(1)と同様に、子会社 株式会社リビングファーストについて財政状態及び回収可能性等を勘案して投資損失引当金を計上することとし、投資損失引当金繰入額を特別損失に計上いたします。

(3) 事務所移転費用：8 百万円（連結）

不動産ポータル事業の効率的な推進と経費削減を目的として、当中間連結会計期間において子会社 株式会社リビングファースト本社を移転したことにより発生した事務所移転費用を、特別損失に計上いたします。

2. 平成 20 年 9 月期 連結業績予想の修正

(1) 中間期（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想 (A)	1,020	10	10	5
今回修正予想 (B)	872	△18	△18	△453
増減額 (B-A)	△148	△28	△28	△458
増減率 (%)	△14.5	—	—	—
(ご参考) 前期実績	954	△373	△359	△358

(2) 通期（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	2,200	110	110	100
今回修正予想 (B)	2,060	110	110	△358
増減額 (B-A)	△140	—	—	△458
増減率 (%)	△6.4	—	—	—
(ご参考) 前期実績	1,800	△625	△612	△1,975

3. 平成 20 年 9 月期 個別業績予想の修正

(1) 中間期（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想（A）	950	125	125	120
今回修正予想（B）	804	122	123	△391
増減額（B－A）	△146	△3	△2	△511
増減率（％）	△15.4	△2.4	△1.6	－
（ご参考）前期実績	867	△267	△251	△253

(2) 通期（平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	2,000	280	280	270
今回修正予想（B）	1,860	280	280	△241
増減額（B－A）	△140	－	－	△511
増減率（％）	△7.0	－	－	－
（ご参考）前期実績	1,673	△354	△335	△1,698

4. 業績予想修正の理由

(1) 中間期（連結・個別）

中間期の売上高は連結で 872 百万円（予想比：148 百万円減）、個別で 804 百万円（予想比：146 百万円減）、営業利益は連結で△18 百万円（予想比：28 百万円減）、個別で 122 百万円（予想比：3 百万円減）と、それぞれ予想を下回る見込みであります。

システム開発事業におきましては、売上の計上時期が計画とずれる案件が発生いたしました。

まず、上期に売上計上を見込んでいた生損保向け案件や金融機関向け案件の一部が、検収時期の変更等により下期にずれ込みました。この検収時期のずれが売上計画に及ぼす影響額は、約 40 百万円であります。また、不動産システム開発においても一部契約の締結時期の見直しがあり、売上計上が上期から下期に変更になりました。この契約時期の変更が売上計画に及ぼす影響額は、約 63 百万円あります。この他、開発要員の増員を見込んでいた情報通信企業向け案件に対して人材の確保が遅れたこと等により、売上高・営業利益は計画を下回りました。

この結果、連結で売上高は 672 百万円（予想比：131 百万円減）、営業利益は 90 百万円（予想比：26 百万円減）となる見込みであります。

不動産ポータル事業におきましては、米国サブプライムローン問題により金融不安が広がったことや建築基準法改正の影響が本格化し、マンションの発売戸数が大都市圏・地方圏いずれも減少したこと、他のポータルサイトとの競争により当初計画ほど広告売上単価が伸びなかったこと等により、広告収入は計画を下回り、連結で売上高は 199 百万円（予想比：17 百万円減）、営業利益は△90 百万円（予想比：29 百万円減）となる見込みであります。

また、中間期の経常利益は連結で△18 百万円（予想比：28 百万円減）、個別で 123 百万円（予想比：2 百万円減）、中間純利益は連結で△453 百万円（予想比：458 百万円減）、個別で△391 百万円（予想比：511 百万円減）と、それぞれ予想を下回る見込みであります。

経常利益の減少要因は、上記売上高・営業利益の減少要因が主なものであります。

中間純利益につきましては、1. でご説明したとおり、連結においては減損損失 422 百万円及び事務所移転費用 8 百万円、個別におきましては投資損失引当金繰入額 511 百万円の発生が、主な減少要因であります。

(2) 通期（連結・個別）

通期の業績予想につきましては、上期において発生した売上計上時期のずれが通期においてもそのまま影響すると予想されることから、売上高の予想を連結で2,060百万円、個別で1,860百万円に下方修正いたします。

営業利益・経常利益につきましては、売上の減少による減益を経費の削減や開発人員の効率的な配置でカバーできる見込みであることから、前回発表予想のままといたします。

当期純利益につきましては、中間期で発生した特別損失がそのまま通期に影響いたしますので、連結で△358百万円、個別で△241百万円に下方修正いたします。

なお、上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上